

ISSN 0389-4452

発行者：毛利和弘  
 発行所：私立短期大学図書館協議会  
 〒263-0021 千葉市稲毛区轟町3-59-5  
 千葉経済大学総合図書館内  
 電話 043-253-9949

2007. 2 No.60

Bulletin  
 of  
 Junior  
 College  
 Library  
 Association

私立短期大学図書館協議会

# 会報

## 平成18年度私立短期大学図書館協議会全国研修会開催

### テーマ『短期大学の図書館力をつける』

日 程：平成18年9月7日(木)～9月8日(金)  
 会 場：東京ガーデンパレス  
 参加者：67名  
 主 催：私立短期大学図書館協議会  
 担当地区：関東・甲信越地区協議会

#### 1日目

講演「クオ・ヴァディス、ビブリオテカ」  
 澁川雅俊氏  
 (アカデミーヒルズ六本木ライブラリー)  
 テーマ講演①「第三者評価」  
 森 茜氏 (国連大学協会理事・事務局長)  
 テーマ講演②「ホームページ」  
 松山龍彦氏 (国際基督教大学図書館)  
 テーマ講演③「利用者教育」  
 井上真琴氏 (同志社大学総合情報センター)  
 情報交換会 (東京ガーデンパレス)

#### 2日目

第1分科会「第三者評価」  
 オブザーバー：毛利和弘氏  
 (私立短期大学図書館協議会会長)  
 司 会：古澤義弘氏 (聖徳大学図書館)  
 出席者：24名  
 第2分科会「ホームページ」  
 オブザーバー：松山龍彦氏  
 (国際基督教大学図書館)  
 司 会：鈴木美千代氏  
 (女子美術大学短期大学部図書館)  
 出席者：10名  
 第3分科会「利用者教育」  
 オブザーバー：井上真琴氏  
 (同志社大学総合情報センター)  
 司 会：石川博丈氏  
 (千葉経済大学総合図書館)  
 出席者：34名



平成18年度私立短期大学図書館全国研修会が東京ガーデンパレスを会場に開催された。

開会挨拶で毛利和弘会長は、「研修には自己(啓発)研修と集合研修がありますが、今回行われる研修はこの集合研修に該当します。新しい発見、問題解決の発見、問題点の発見が研修の大きな目的と言われており、そのためには触媒となる「情熱」と「熱意」が必要です。この二日間ぜひとも情熱、熱意を持ち続けていただいているいろいろな発見をして、自分の図書館の発展のために研修成果を活用していただきたいと切に願っております。」と話されました。

## 講演「クオ・ヴァディス、ビブリオテカ」

澁川雅俊氏

(アカデミーヒルズ六本木ライブラリー)



(講演要旨)

### 図書館はどこにむかうのか？

コンピュータ、データ通信の発達により、90年代図書館の仕事に変化が起こり、その延長線上での仕事が続いている。今後はどのようにすればいいのか。

### アカデミーヒルズ六本木ライブラリー

2004年4月にオープン、森タワーの49階(270m)で、360度眺望できる。いわゆる図書館ではなく、コンセプトは「書斎」である。Libraryには文化的生活のインフラストラクチャーとしての図書館と、個人の私生活の知的空間・施設としての文庫あるいは書斎、という二つの意味があり、六本木ライブラリーはこの書斎を発達させたものである。書斎〈空間〉の要件は、仕事・娯楽・考える目的での空間活用、設備・知的コンテンツ・サービス等の構成要素、リラックス&フリー・コンセントレート・アービトラリー等の特性等があげられる。それに応えようとした森ビル文化事業部が提供する商品が六本木ライブラリーである。

### 図書館の過去・現在・未来

紙媒体から、マイクロフィルム・視聴覚資料等へと境もなく移行されていた。1960年代より国の政策として図書館事業が開始され、書物図書館からパラメディア図書館、そして電子図書館へと移行していく。ホームページ・OPAC・電子ジャーナル・メール等の提供があたりまえになりつつある。これに資料作成しネットに取り込む仕事や、紙媒体を電子化して発信するデジタル・アーカイブなどが行なわれるようになった。図書館進化の予測として、デジタルライブラリーになるのでは

ないかと考えられるが、実際もう始まっているともいえる。学生はまずウェブで調べることがあたりまえになっているのが現状である。

### 人びとはいったい図書館に何を期待しているのか

365日利用でき、可能な限りな知識・情報を得られることといえるだろう。ミクロレベルで図書館が将来にそなえることは、利用者が図書館に何を望んでいるのかを考えていくことが大切である。近くに気ままに、気楽に利用できる拠点・空間があること。これをサポートするポズビタリティ(思いやり)が必要である。

(記録：鈴木美千代・女子美術大学短期大学部図書館)

## テーマ講演①「第三者評価」

森 茜氏(国連大学協力会理事・事務局長)



(講演要旨)

### 全入時代の私立短期大学の現状

18歳人口が減少し、短期大学数も減少している。平成18年度は約半数の短大が定員を満たしていない上に、歩留率が80%台と高くなっていることから、推薦入試に頼っているといえる。経営面においては、学校法人全体の中で予算を賄わなければならないが、短大は36.1%が附属収入で賄っていない。多くの短大が賄えない状況にあることを認識し、経営という目を持って図書館を見なくてはならない。短大は収支が悪化し、定員を上回ってさえも赤字の学校がある。以上、短期大学が置かれている現状となるが、どの学校も同じ状況である。

### 大学の生き残りをかけた改革と認証評価と第三者評価

平成16年度に文部省は高等教育の個性化を図った。その第一弾が自己点検評価である。外部評価、認証評価として法律上規定されるようになった。

次が大学設置認可手続きの簡素化、弾力化。文部省が認定した認証評価機関、第三者機関が評価して、確認する仕組みに変えた。これが認証評価制度である。最後に大学の国際競争力の強化で、規制をする事によって国際的な競争マーケットから日本政府は日本の大学を守ってきたが、アメリカの大学の進出によって駆逐されてしまうかもしれない。それに対抗するため、昨年文科省は日本の大学が外国へ支部を作るときに補助金を出すという制度を開始した。短期大学がどのような目的を持って生き延びていくかをしっかり考えないといけない。

### 短期大学運営と図書館の改革

短大の第三者評価の報告書で参考になるようなことは何も書かれていない。短期大学の場合、細かいことを述べていくと大学としてのポテンシャルが小さくなる可能性がある。だから、今は短期大学基準協会しか認証評価を行っておらず、図書館についてはほとんどきちんとした記述がない。一番重要なのはカリキュラムに即応した蔵書構成をもっているかどうかということ。そこを押さえて報告書には強調して書くこと。第三者評価というのは、受ける為だけではなく、それを通して大学改革の為に使っていくものである。そのような認識をして積極的に受けてもらいたい。受けてから改革するのではなく、あらかじめ皆さんの方で注意して改革をしておけば、認証評価の時にはそこをポイントに書いていくことができる、ということ講演は締めくくられた。

(記録：鈴木美千代・女子美術大学短期大学部図書館)

## テーマ講演②「ホームページ」

松山龍彦氏 (国際基督教大学図書館)



主に、ウェブページのユーザビリティについてのお話を中心となる。

ユーザビリティとはどういうものか。そして、ウェブページにおけるユーザビリティとは何か。これらについて、松山氏が作成した「MoogaOne」を中心として、他大学等のウェブページを例に挙げながら、わかりやすく話がすすめられ、随所に笑いを散りばめた楽しい講演となった。

(講演要旨)

### 「MoogaOne」とは？

自作ウェブページのための HTML と css のひな形。テキストエディタ (またはワード) ですべての作業が可能である。

### 「MoogaOne」の使い方

必要ファイルをダウンロードして使用 (最低必要ファイルは4つのみ) する。①トップページのひな形。②トップページ専用の css スタイル。③トップページ以外のページのひな形。④サイト内全ページに共通する css スタイル。

(<http://mook.mook.to/MoogaOne/index.htm>)

### ユーザビリティの定義

(By Jakob Nielsen より日本語転載)

[<http://www.usability.gr.jp/index.html>]

①システムは、ユーザがそれをすぐ使い始められるよう、簡単に学習できるようにしなければならない (学習しやすさ)。②一度学習すれば、あとは高い生産性を上げられるよう、効率的に使用できるものでなければならない (効率性)。③ユーザがしばらく使わなくても、また使うときにすぐ使えるよう覚えやすくしなければならない (記憶しやすさ)。④エラーの発生率を低くし、エラーが起こっても回復できるようにし、かつ致命的なエラーは起こってはならない (エラー)。⑤ユーザが個人的に満足できるよう、また好きになるよう、楽しく利用できなければならない (主観的満足度)。

### ユーザビリティの定義 (松山風)

期待しているものが、期待している場所と時間に、期待している状態で存在する事。

### 「MoogaOne」のユーザビリティ

①テキストを優先。ファイル数が少なく済み、テキストエディタ (またはワード) ですべての作業が可能である (最小限の画像)。色覚障害者には障壁となるため、色分けする意味はほとんどない (最小限の色)。②メニューの非差別化。主従を反映させないデザインを意味する。トップページは表紙ではなく目次であるため、階層を少なく

する。③cssによるデザイン。デザインを統一する。同じサイト内にいるという認識ができる。④メニュー（リンク）の適切な命名。「図書および一部の雑誌のカウンタでの貸出手続き」よりも「本の貸出」が良い（短い名前）。「ニュース」よりも「最新情報」、「サーチ」ではなく「検索」が誰でもわかる（日本語の名前）。

（記録：寺島紀衣・植草学園短期大学図書館）

### テーマ講演③「利用者教育」

井上真琴氏（同志社大学総合情報センター）



同志社大学総合情報センターの利用者教育の現状を例に挙げながら、利用者教育における実践とその課題などについて話された。

（講演要旨）

#### 図書館利用教育での模索

##### ①利用教育の再検討

レファレンスでの質問において、雑誌・図書の区別や、そのメディアの特性もわからず、そもそも何がテーマなのかがわかっていない。

##### ②さまざまな問題群

カリキュラムや教員とどのような連携をとればいいのかわからない。図書館利用教育か、情報リテラシー教育か、利用教育の定義の揺れがある。

#### 実践にむけた論議

##### ①初年次教育との接近

学生を動機づけて大学生活に円滑に意向させるという、大学生活への転換を支援する教育を行なう。

##### ②実態調査と対応

「初年次教育」の意義は認めるが、何をしてもいかわからない。担当教員によって内容に相当なバラつきがある。

#### プログラムの焦点と実施形態

##### ①プログラム内容と広報

「図書の探し方」「論文の探し方」「新聞記事の探し方」という内容のそれぞれ30分のアラカルト・メニューを作成し、それを組み合わせて選択する。アラカルト・メニューを作成することで、教員への広報や注文内容に対する歯止めにする。

##### ②コンセプトをどこにおくのか

「図書館利用教育」と「情報リテラシー教育」とはどういう関係にあるのか。ゴルフのように、いきなりホールインワンを狙わず、手前から順番にきちんとテーマを決めていき、最後に無事バットを収めなければ終着点にいけない、ということをしきりと教える。

##### ③図書館側の能力

今までの図書館員は図書館にある本だけを相手にその仲介役をやってきたが、今は外側にインターネットの世界があり、自分のところのコレクションに加えて外側の資料も合わせてどんなふうに使えばいいのかを教えないといけない。

#### 今後の課題

##### ①検索エンジンと電子情報源

通常の検索ロボットがインデキシングしている表層ウェブ上と、データベース（特にRDBMS）のテーブル内に保存されるデータ認証が必要な深層ウェブ上とにある、電子情報源をどんなふうにも評価していくかということが重要である。

##### ②効果の測定は可能か

実際のところ、現時点ではアセスメントは難しい。

（記録：寺島紀衣・植草学園短期大学図書館）

## 第1分科会「第三者評価」

オブザーバー：毛利和弘氏（会長）

司会：古澤義弘氏（聖徳大学図書館）

参加短大のほとんどがこれから評価を受ける予定のため、すでに受けた大学の経験談、評価を受ける際の留意点等を聞きたいとのことであった。評価を受けた短大が何校か参加されており、第三者評価を受けるまでの流れ、自己点検報告書作成に向けて準備すること、自己点検評価報告書作成の際の留意点などについて報告をしていただいた。続いて質疑応答が始まる。①参考図書はどの程度そろえておく必要があるかについては、規程が確定できていれば規程に準ずるとし、確定していない場合はまず、規程をきちんとするべきである。

②アウトソーシングは評価の対象となるかについては、アウトソーシングの方法によって異なり、専門職（レファレンス等）を委託している場合や派遣職員が全員司書である場合は対象となる。③訪問調査では、評価委員は報告書をよく読みこんでおり、報告書に記述されていることが聞かれる。④司書の能力の評価をあらわすには、感覚的表現をさげ、能力は適格である理由を記述することが一般的かと思われる。⑤開館時間の評価については、学生の授業が終わったあとにどれだけ図書館で勉強の時間があるかが基準となる。以上、質疑の紹介は主なものにとどめるが、全体として4年制大学の場合はかなりきびしいものの、短期大学の場合は、現状をきちんと報告できていれば大丈夫ではないかとのことであった。第三者評価を受けることが決まった時点で、階段に手すりがついた、パソコンがいきなり台数が増えた、エレベータに車椅子が入れるようになった等、改善がみられた短大もあり、本気で評価を受ける気があるなら、「第三者評価」を盾に改善を訴えるのも1方法と思われる。

最後に要望項目として、司書の専門性を高めるべく研修会を短期大学協議会で企画してもらえないかとの意見が出された。これについてはすでに協議会で懸案事項としてあげられているが、棚上げになったままの状態であった。今後検討をしたということ締められた。

（記録：伊藤富士子・東京農業大学図書館）

## 第2分科会「ホームページ」

オブザーバー：松山龍彦氏

（国際基督教大学図書館）

司 会：鈴木美千代氏

（女子美術大学短期大学部図書館）

開会にあたって、講師から前日の講演でお話された「レジュメ」（A4・2枚）が、分科会参加者のみに配布された。次に初めの1時間を講演の続きとして、ホームページ作成は、そんなに難しくなく誰にでも出来るということと、実際の作成過程を理解して欲しいという前提で話をお聞きした。「MoogaOne」はCSSを使うが、難しいCSSの複雑な記述を勉強せずに、講師作成の、HTMLのテキストだけ書き込めば簡単にホームページ作成出来る。実際に画面上で、「MoogaOne」ホームページを利用しながら、新規のホームページを作成する過程を説明し、本文（文章部分）、全体

のデザイン、セクションのデザインの組み合わせでホームページが出来上がっていく様子を見ることができた。

（「MoogaOne」HP参照 2006.11.10現在

<http://mook.mook.to/MoogaOne/index.htm>）

その後、出席者が自己紹介しながら、自館のホームページの現状・問題点・講師への質問などを出し合って討議に入る。オブザーバーの松山氏からは、「MoogaOne」は作成に当たって「出来ること」「出来ないこと」があり、枠組み作りを提供しレイアウトとメニュー作りをコンセプトにしているため、サービスや特殊な資料などのページを作るというような高度な技術のことは、専門家に相談してほしいとのアドバイスを受けた。さらに松山氏は、ユーザビリティの観点からみたら、ウェブページは芸術（アート）ではない。手の込んだ美しい装飾されたページは、情報を得るには役立たない。“期待しているものが、期待している場所と時間に、期待している状態で存在すること”テキストに勝るもの無しというのが私のコンセプトであるとまとめられた。

（記録：長張和子・上田女子短期大学図書館）

## 第3分科会「利用者教育」

オブザーバー：井上真琴氏

（同志社大学総合情報センター）

司 会：石川博文氏

（千葉経済大学総合図書館）

まず、自己紹介を兼ねた各大学の利用者教育の状況説明が行われ、どの大学も前向きに利用者教育に取り組んでいる様子であった。オブザーバーの井上氏からは昨日の講演の補足が行われ、利用者教育は大学の個性に合わせて行なうこと、利用者の側から考えていくこと、教務・教員との連携、図書館に学生を呼ぶための図書館広報が大切とのアドバイスをいただく。その後、事前アンケートの質問に沿い、ガイダンスの告知方法、ガイダンスの効果をどのように把握するか、図書館報を発行しているかどうかとその広報について、さまざまな取り組みの報告が行われた。

今回の分科会は、参考になるご意見も多々あり、利用者教育への考え方や取り組み方法を見直す良い機会となった。

（記録：竹信幾久子・鶴見大学図書館）

# 「全国研修会」アンケート集計結果

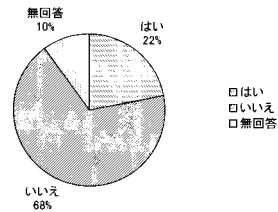
## I. 事前アンケート集計結果

回答件数 67名 (回答率 100%)

### 1. 第三者評価について

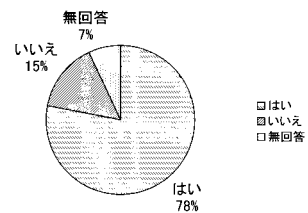
#### 1-1 すでに第三者評価を実施している

はい	15人
いいえ	45人
無回答	7人



#### 1-2 自己点検評価を実施している

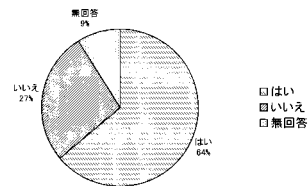
はい	52人
いいえ	10人
無回答	5人



### 2. ホームページについて

#### 2-1 図書館ホームページを開設している

はい	43人
いいえ	18人
無回答	6人



### 3. 利用者教育について (自由記述)

(かっこ内は同意見数、数字のないものは1件とする) (回答件数104件)

#### 3-1 実践している利用者教育ご記入下さい

##### ○新入生

- ・新入生オリエンテーション (52)
- ・新入生への図書館紹介ビデオ
- ・新入生対象の図書館ツアー

##### ○ガイダンス

- ・文献探索ガイダンス (5)
- ・授業ガイダンス (2)
- ・授業内における文献ガイダンス (2)
- ・文献ガイダンス
- ・基礎演習ガイダンス
- ・レポート作成ガイダンス
- ・OPACによる図書館資料の探し方ガイダンス
- ・OPAC利用法ガイダンス

##### ○その他

- ・データベース利用方法 (3) (大学院 1)
- ・図書館ガイダンス (フロア案内・利用案内・蔵書検索等) (3)

- ・レポート作成のための図書館利用案内
- ・図書館ツアー (OPAC編・論文検索編)
- ・個人向け図書館ツアー (資料検索)
- ・ライブラリーツアー (図書館見学)
- ・大学院生対象データベース個別説明会 (個人申込制)
- ・「図書館情報概論」受講者への図書館利用案内
- ・本の探し方説明会 (OPAC説明等)
- ・利用セミナー
- ・フレッシュマンセミナー

##### ○2年生対象

- ・2年次生オリエンテーション (文献検索など)
- ・2年生、講義内容に関するレポート作成のための文献検索 (教員依頼)
- ・研究報告 (2年生対象) 文献検索ガイダンス

## ○ゼミ

- ・ゼミツアー
- ・ゼミ単位の利用ガイダンス（教員依頼）
- ・図書館情報収集法（希望ゼミのみ）
- ・ゼミ単位での利用案内
- ・図書館ガイダンス（ゼミ毎）
- ・ゼミ指導

## ○卒論

- ・大学生卒論ガイダンス（2）
- ・卒業研究のための文献検索レクチャー（ゼミ単位で）
- ・卒業研究のための図書館利用案内

・文献の探し方説明会（卒論生対象）

・卒業論文・レポート作成等の文献検索講習会（3・4年生対象）

## ○講習会

- ・OPAC講習会（2）
- ・ソフトウェア講習会
- ・情報探索法講習会
- ・OPAC、雑誌記事検索、パスファインダーを使った講習会
- ・有料データベースの利用講習会（全学生対象、日経テレコン21、CiNii・ジャーナル・インデックス）

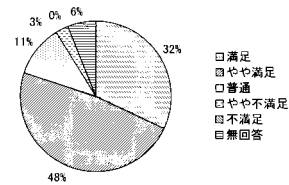
## II. 事後アンケート集計結果

回答件数63名（対象者数67名 回答率94%）

## 1. 特別講演及びテーマ講演について

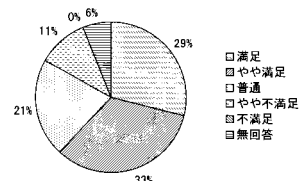
## 1-1 特別講演

満足	20人
やや満足	30人
普通	7人
やや不満足	2人
不満足	0人
無回答	4人



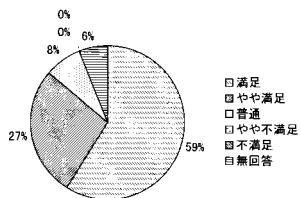
## 1-2 テーマ講演①「第三者評価」

満足	18人
やや満足	21人
普通	13人
やや不満足	7人
不満足	0人
無回答	4人



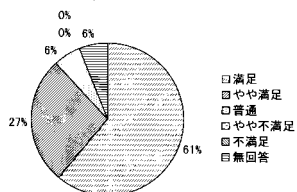
## 1-3 テーマ講演②「ホームページ」

満足	37人
やや満足	17人
普通	5人
やや不満足	0人
不満足	0人
無回答	4人



## 1-4 テーマ講演③「利用者教育」

満足	38人
やや満足	17人
普通	4人
やや不満足	0人
不満足	0人
無回答	4人

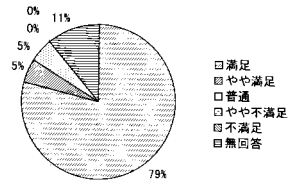


## 2. 分科会について

### 2-1 第1分科会「第三者評価」

回答件数19名(対象者数22名 回答率86%)

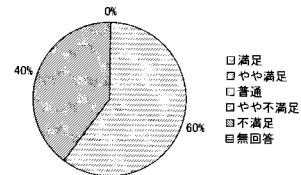
満 足	.....	15人
やや満足	.....	1人
普 通	.....	1人
やや不満足	.....	0人
不 満 足	.....	0人
無 回 答	.....	2人



### 2-2 第2分科会「ホームページ」

回答件数10名(対象者数10名 回答率100%)

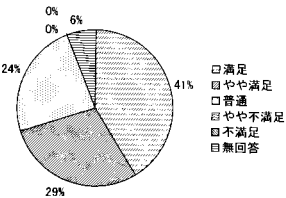
満 足	.....	6人
やや満足	.....	4人
普 通	.....	0人
やや不満足	.....	0人
不 満 足	.....	0人
無 回 答	.....	0人



### 2-3 第3分科会「利用者教育」

回答件数 34名(対象者数35名 回答率97%)

満 足	.....	14人
やや満足	.....	10人
普 通	.....	8人
やや不満足	.....	0人
不 満 足	.....	0人
無 回 答	.....	2人



## 3. その他全体を通して、ご意見・ご感想、また今後企画してほしい議題等があればご記入ください。 (自由記述)(回答件数31件)

- ・初日の午後の講演ですが、概要にしる、一つのテーマを語っていただく為には一時間という時間は短い気がします。実際に各々の先生方の話は一時間で収まらなかった訳ですし、森先生のように講演者が後の分科会に出席できない場合もある以上、質疑応答は講演と同時に行わなければ意味が半減すると思います。テーマを絞るなり、各々のテーマを並列振興させるなり、あるいは情報交換会辺りの時間を削るなりしてテーマ講演の時間を増やしたほうが良いのではないのでしょうか。
- ・初日の講演は今本館で控えているどうしたら良いかわからない問題点をとりあげていただきありがとうございました。糸口が見えたような気がしました。
- ・全体的に時間に余裕がなかった。
- ・二日間を通して、良い内容であったと思います。ありがとうございました。
- ・六本木ヒルズへの移動の際の配慮、深く感謝申し上げます。
- ・貴重な経験になりました。ありがとうございました。
- ・アカデミーヒルズの見学も大変面白く有意義だったのですが、前日の講演がいずれも興味深い内容だったので、できれば講演を2日に分け時間を充分に取って、更に深くお話を聞きたかったように思います。とても充実した研修会であったと思います。幹事会の皆様ありがとうございました。
- ・短い日数で濃縮された内容が良かった。楽しい企画もあり良かった。
- ・講演テーマ、分科会ともに、充実した研究会でした。ありがとうございました。講師の人選もよかったと思います。



- やや時間に追われ、きつい感じがあったが、おおむね内容の濃いテーマで非加盟参加が多かったこともうれしい。
- いずれの内容も、充実した内容で大変参考になりました。ありがとうございました。
- 一日目は少しつめこみすぎかなと思います。講演の数を減らして、詳しく話していただけたらよかったです。
- タイムリーな情報が聞けたので、かなり有益だった。
- 参考になりました。事例がよかった。事前アンケートの中の質問について、回答を求める際、質問した方に再度ご本人から説明があると、質問の主旨がわかりやすくなっていいのではないかと思います。
- 講師井上先生のお話しは良かったです。学校の個性に合わせていくという点は、今まで気がつかず理想のガイダンス、理想の利用教育を考えもなく追い求めていたことに気がきました。読書は大事ということは昔からずっと言われ続けています。司書は、読書に親しんでもらいたいという気持ちで学生に接していると思います。でも現状は、学生の読書離れが問題となっています。何故本を読まないのかと考えていくと、読書は本当に必要なのかという疑問が湧いてきました。必要ではないので読まないのではないのか…？以上の内容で（読書は何故必要か、のようなテーマで）ご講演していただければと思います。
- 自短大もどこも同じようなガイダンスをしていると思った。
- テーマの選択は非常に良かったと思います！ただ、1つ1つが全て時間不足で、もっと聞きたいー！という欲求が残りました。しかし全体としてすばらしかったです。講師の皆さま、ありがとうございました。幹事の皆さま、お世話になりました。
- 協議会に加盟しておりませんが、参加させていただきましてこと感謝申し上げます。職員数も少ない小さな所ですので、加盟して参りますことは困難ですが、どうぞ当会の御発展をお祈り申し上げますと共に今後ともよろしく願います。
- 有意義な2日間でした。
- 六本木ライブラリーの見学、説明付きの見学に参加できないのが残念だった。
- 大変有意義な2日間です。お世話いただいた事務局の方々、先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。
- 短大図書館という同じ館種の方々との研修は、あまりないので意見交換・交流ができました。
- 初日の講演は、4つとも時間が足りず残念でした。しかしそれ以外のテーマ設定等は大変興味深いものでした。2日間で学んだことを、今後活かしたいと思います。ありがとうございました。
- 六本木ヒルズライブラリーの見学会に参加したかったのですが、地方優先ということで辞退しました。こういった機会は中々ないので、参加希望者全員が説明を受けられるといいと思います。
- お昼のお弁当1,500円は高いと感じた。
- ひさしぶりに参加した全国研修会でした。研修会に参加すると得られるものがたくさんありますね。持ち帰って自館に少しでも生かして行きたいと思います。今回企画していただいた関東地区の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。
- 大変勉強になる講演会の研修会で、参加することができて良かったです。次回講習があるならば、ホームページ作成の講習を受講したいと思います。
- 東京でこの時期に開催されたので、久しぶりに参加できて良かった。
- H P作成についてもう少し詳しくお願いしたいと思います。今回2日間ともテーブルに布がかかかっていて、ノートが取りにくいので、普通の机でお願いします。幹事のみなさんありがとうございました。
- 講演テーマが多く、どのテーマも業務に関する問題で興味が有り、時間が短くさえ感じました。研修会を運営して下さった皆様に、感謝しております。ありがとうございました。
- 利用マナーについてのどの程度の範囲まで許しているのか各校の利用マナーの現状について知りたいです。



## 全国研修会に参加して

### 「大きな指針」

夙川学院短期大学図書館 山本 滋

研修会の感想を依頼された時、驚き躊躇したが、「勉強のため頑張りなさい」という、隣席の方からの声援もあり、引き受けることにした。

まず始めに澁川雅俊先生の講演と見学会で感じたことは、大都会東京で暮らす人々のある種のステータスシンボル、「さすが東京」の一言であった。

松山龍彦先生の講演では、図書館HPを持たない本館にとって少しハードルが高いように感じた。しかし、今後HPの作成を前向きに検討していく指針となった。

井上真琴先生の講演で印象に残ったのが、「家紋」の答えを導きだすレファレンスである。本館のレファレンスは、サービスを知らない学生が多いこともあり、月に数回程度である。まず、利用者の目線に立ち利用者教育を実施できる現場づくりを目標にするためどのような努力を行うべきか考えなければならぬと感じた。

森茜先生の講演は、時間制約から具体的な事例を聞けずとても残念だったが、その後の分科会で基本的な説明と、第三者評価を終了した他大学の意見を聞くことができ、どのような観点でとらえていくのか理解できた。その中で最も重要であると感じた事項が「バリアフリー」である。傾斜面にある本学の敷地では、各棟への移動手段はすべて階段となっている。各棟にエレベーター・エスカレーターは設置しておらず、手すりのない階段も存在する。構造上、各棟への移動は身体に障害を持つ人は困難である。本学は、平成21年に第三者評価を実施する。私も「何らかの対策をしなければならぬ」と報告した。

最後に、この研修会で得た事が、大きな指針になると確信しております。研修会でお世話になったみなさまに感謝します。いろいろご指導いただきありがとうございます。また研修会でお会いできるのを楽しみにしております。

### 「攻めの図書館利用教育」

・・・いまだ攻め切れず

清泉女学院大学・短期大学図書館 田村 栄子

今年度研修会のプログラムをいただいた時は、六本木ライブラリーの見学を始め魅力的な内容で、分科会の選択に迷いました。ですから、1日目はそれぞれのテーマで講演を聞くことができ、とても参考になり、ありがたかったです。

そんな中で私が選んだのは「利用者教育」でした。図書館をもっと利用して欲しい、図書館の使い方を教えて欲しい、と常日頃思っていますが、PR不足は否めません。他の図書館ではどんな工夫をしていらっしゃるのか、具体的なお話を伺えると期待して参加しました。しかし、こんな考え自体がそもそも甘かったようです。どこの学校も一律ではありえない、自分の大学の規模・機能に合った図書館か、選書の基準となる教務内容を理解しているか、そして利用者の立場で考えているかなど、講師の井上先生のお話は私の場合「ちょっと待てい！」の連続だなど少々緊張して伺っていました。「攻める」というタイトルどおりの取り組みに感心しながら、自分のところではどんなことができるだろうかと頭を抱えていました。

図書館独自では限界があることは感じていましたが、「攻める」矛先を教員にもっと向けないことには始まらないと改めて思いました。図書館ではこういうことをやっています、こんなことができます、と教員に向けて発信していらっしゃるという学校の事例は是非真似をしたいと思います。小さな学校ですので、先生方との接点は少なくありません。また、よく図書館を利用する学生にはできるだけ一言かけ、学生からも声をかけやすい雰囲気をと心がけています。今まで図書館に関心がなかった学生に、まず足を運んでもらうそのきっかけを先生方に作っていただけるように、メッセージを送っていこうと思います。

# 事務局報告

神月 博 研修担当（平成18年度）  
（東京女子体育短期大学図書館）  
馬場美津子 研修担当（平成20年度）  
（名古屋短期大学図書館）

<会 勢> 平成18年12月18日現在  
北海道14 東北18 関東・甲信越74  
東海・北陸23 近畿43 中国・四国17  
九州21 合計210館

## <退会館>

平成19年3月末退会  
武蔵野女子大学短期大学部図書館（関東甲信越地区）  
田園調布学園大学短期大学部図書館（関東甲信越地区）  
大垣女子短期大学図書館（東海・北陸地区）  
※平成18年3月に遡り退会  
岐阜聖徳学園大学図書館（東海・北陸地区）  
京都西山短期大学図書館（近畿地区）  
滋賀文化短期大学図書館（近畿地区）  
宇部フロンティア大学短期大学部図書館（中国・四国地区）

## <加盟館>

清泉女学院短期大学図書館（関東甲信越地区）  
横浜女子短期大学図書館（関東甲信越地区）

## <会 議>

平成18年度業務担当者連絡会議

日 時：平成18年12月14日(木)～15日(金)

場 所：東京ガーデンパレス

出席者：毛利和弘 会長（亜細亜大学図書館）

石川博文 本部事務局（平成18年度）

（千葉経済大学総合図書館）

古澤義弘 本部会計（平成18年度）

（聖徳大学川並記念図書館）

小野恵子 本部会計（平成19年度）

（文化女子大学図書館）

木村修一 会報担当（平成18年度）

（北海道武蔵女子短期大学図書館）

山田奈緒美 会報担当（平成19年度）

（滋賀文教短期大学図書館）

高橋尚美 紀要担当（平成18年度）

（松山短期大学図書館）

福島裕子 紀要担当（平成19年度）

（精華女子短期大学附属図書館）

北崎泰子 紀要担当（平成19年度）

（西日本短期大学図書館）

議 事：1. 出席者自己紹介

2. 報告事項

①会勢

②平成18年度中間会計報告

3. 協議事項

①会報について

②紀要について

③全国研修会について

④その他

会報・紀要・研修の各業務についての平成18年度報告および次年度担当者への引継ぎとして、その業務遂行に関する留意事項やスケジュール等の連絡が行われた。また、次期担当者からの質問に対して、今期担当者から回答がされた。紀要について、講演内容に関する論稿を掲載することを原則とし、今後は研修等の講演者には事前にレジュメの転載や論稿執筆の了承を得ておくことになった。会報について、毎号の誌面中に「紀要の原稿募集」を入れることになった。研修について、地区協議会主催で開催している研修を拡大するイメージで全国研修を位置づけることが確認された。

その他私立短期大学図書館協議会の今後の方針や方策について話し合いが持たれた。

平成19年度全国理事会および全国総会について、平成19年5月17日(木)・18日(金)に東京ガーデンパレスで開催される予定であることが報告された。また平成19年5月19日(金)、私立短期大学図書館協議会30周年記念式典が同所において開催される予定であることが重ねて報告された。

## <今後の予定>

○平成19年度理事会および総会

開催予定：平成19年5月17日(木)・18日(金)

会場予定：東京ガーデンパレス

○私立短期大学図書館協議会30周年記念式典（仮称）

開催予定：平成19年5月18日(金)

会場予定：東京ガーデンパレス

## <本部役員会記録>

この会議は、関東・甲信越地区協議会幹事会と同日開催。

- 第1回 平成18年5月19日(金)  
会場：第二丸善ビル会議室
- 第2回 平成18年7月25日(火)  
会場：東京農業大学図書館
- 第3回 平成18年9月7日(木)  
会場：東京ガーデンパレス
- 第4回 平成18年11月14日(火)  
会場：東京農業大学図書館
- 第5回 平成19年1月16日(火) (予定)  
会場：東京ガーデンパレス

## 地区活動報告

### <北海道地区>

#### 平成18年度研修会

日 時：平成18年8月25日(金) 13:00-17:30  
会 場：札幌大谷大学・札幌大谷短期大学視聴覚室  
参加者：加盟館14名、  
一般参加（講演会のみ）10名

#### 内 容：

##### I. 講演

- ・「北海道で本を出版するということ」  
寿郎社代表 土肥寿郎氏
- ・「まちの知的交流の拠点としての高校図書館」  
北海道立篠路高校教諭 塚田敏信氏

##### II. 事例発表

テーマ「読書のすすめ～短大図書館における試み」  
釧路短期大学附属図書館 渡辺泰代氏  
北海道武蔵女子短期大学附属図書館 柳橋 望氏  
札幌大谷大学・札幌大谷短期大学図書館  
我孫子晴美氏

今年度の研修会は午後からの開催とし、前半の講演会には加盟館以外の方にも参加を呼びかけた。



(北海道地区研修会)

北海道で出版社をたちあげた土肥氏の話は、普段は接することがない出版社の裏事情や苦労話などを伺うことができ、好評であった。また、高校図書館を基点に市民参加の講座を開講するなど活発な活動をされている塚田氏はスライドを使いながらのわかりやすい内容で、聴衆の興味を引いた。後半の事例発表では、三つの図書館が日ごろの活動の中で実践している「読書のすすめ」について報告し、それぞれの図書館の工夫と具体例を知ることができた。

### <東北地区>

#### 平成18年度 東北地区協議会見学会

日 時 平成18年10月27日(金) 13:00~13:30  
場 所 聖園学園短期大学図書館  
参加者 13館 17名

総会・研修会に先立ち、会場の図書館内を見学。利用しやすい図書館づくりを目指して、様々な改善を試みている途中であることを館長・司書から説明があった。

#### 平成18年度 東北地区協議会総会・研修会

日 時 平成18年10月27日(金) 13:00~17:00  
場 所 聖園学園短期大学図書館 3階閲覧室  
出席者 13館 19名

##### 1. 総 会

議題：①平成17年度活動報告  
②平成17年度決算報告  
③平成17年度監査報告  
④平成18年度事業計画・予算  
⑤平成18年度全国理事会報告  
⑥平成18年度全国研修会報告  
⑦その他：私短図協30周年記念事業について

##### 2. 研修会

第1部「新しい図書館の創造—第三者評価に向けて—」

討議事項：①第三者評価を受ける時期、及び準備状況について

事例発表：①小松良重氏（八戸大学・八戸短期大学図書館）

②アンドリュウ・デュアー氏（桜の聖母短期大学図書館情報センター）

第2部 協議・承合案件について

討議事項：①館内カラーコピー機の使用について

②災害対策について

③図書館におけるインターネット端末の設置及び管理・運用について

④図書館が担当している図書館以外の職務分掌上の業務について

⑤レファレンスについて

第1部は加盟館2館から第三者評価についての事例発表と、その内容に基づく質疑応答を行った。参加者の関心が高いテーマであり、具体的な質問が活発に出され、詳細な分析と経験に基づいた回答が得られた。

第2部は、研修会に先立ち、議題内容について加盟館に事前にアンケートを行った。アンケート資料を参考に、各加盟館のより身近な問題を議論した。



(東北地区研修会)

## <関東・甲信越地区>

### 1. 幹事会

#### ①平成18年度第2回合同幹事会

日時：平成18年7月25日(火) 14:30～17:00

場所：東京農業大学図書館

議事：平成18年度全国研修会について  
30周年記念事業について  
その他

#### ②平成18年度第3回合同幹事会

日時：平成18年8月25日(金) 13:00～17:00

場所：東京ガーデンパレス

議事：平成18年全国研修会事前打合せ、会場下見

#### ③平成18年度第4回合同幹事会

日時：平成18年11月14日(火) 14:00～17:00

場所：東京農業大学図書館

議事：平成19・20年担当幹事館業務役割分担  
30周年記念事業について  
会計監査選出について

### 2. 会報41号の発行

平成18年9月20日刊

総会報告

### 3. 全国研修会開催

日時：平成18年9月7日(木)～8日(金)

場所：東京ガーデンパレス

テーマ：「短期大学の図書館力をつける」

講師：澁川雅俊氏（アカデミーヒルズ六本木ライブラリー）

森 茜氏（国連大学協会）

松山龍彦氏（国際基督教大学）

井上真琴氏（同志社大学）

見学会：アカデミーヒルズ六本木ライブラリー

参加者：67名（内12館は非加盟館）

## <東海・北陸地区>

### 1. 平成18年度第2回幹事会

日時：平成18年7月4日(火) 13:00～16:00

場所：東海女子大学・東海女子短期大学附属図書館

出席：5館7名

議題：①全国理事会、全国総会報告

②平成18年度総大会・研修会実施（案）について

③会長校・幹事校の輪番について

④その他

・平成20年度全国研修会について

・私短協協創立30周年記念行事について

・私短協協全国業務 紀要および会報について

### 2. 平成18年度総大会・情報交換会・研修会

#### <<総大会>>

日時：平成18年8月30日(水) 13:30～16:50

場所：十八楼

出席：14館19名（委任状提出館：10館）

#### <総会>

議題：①東海・北陸地区加盟館の現状

②平成18年度役員校紹介

③平成17年度事業報告

④平成17年度決算報告

⑤監査報告

⑥平成18年度事業計画（案）について

⑦平成18年度収支予算（案）について

⑧地区割編成（案）について

⑨東海・北陸地区図書館協議会内規の改正について

⑩会長校輪番について

⑪幹事校輪番について

⑫平成19年度会長校および地区幹事校の確認

- ⑬全国研修会について
- ⑭東海地区大学図書館協議会 私立短期大学役員について
- ⑮平成19年度会長校挨拶 [北陸学院短期大学ヘッセル記念図書館]

#### <講演会>

テーマ：「大阪市立大学学術情報総合センターにおける基盤支援システム」

講師：村上晴美氏

(大阪市立大学大学院創造都市研究科兼学術情報総合センター助教授)

#### <<情報交流会>>

日時：平成18年8月30日(木) 18:30~21:30

場所：十八楼(長良川鶴飼)

出席：12館16名+講師1名

#### <<研修会>>

日時：平成18年8月31日(木) 9:30~15:00

場所：東海女子大学・東海女子短期大学附属図書館

出席：14館17名

#### <講演会>

テーマ：「地震災害の現実と危機管理」

講師：川口淳氏

(三重大学大学院工学研究科助教授  
同大学災害対策プロジェクト室チーフオーガナイザ併任)

#### <研修会>

テーマ：「図書館防災マニュアル」作成(防災アンケート集計結果報告)

#### <見学>

かかみがはら航空宇宙科学博物館

### 3. 平成18年度第3回幹事会

日時：平成18年12月7日(木) 11:30~14:30

場所：岐阜ワシントンホテルプラザ

出席：6館9名

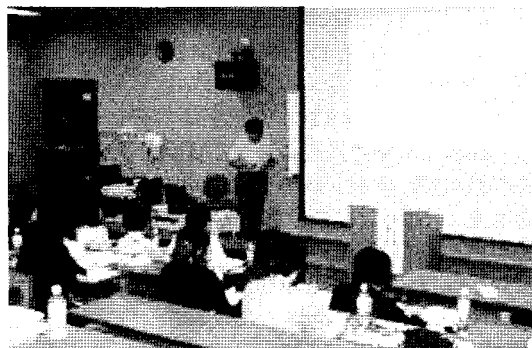
議題：①平成18年度総大会・研修会反省について

②平成19年度総大会・研修会実施(案)について

③平成19年度幹事校について

④平成20年度全国研修会について

⑤その他



(東海・北陸地区研修会)

8月31日(木)、東海女子大学・東海女子短期大学附属図書館大セミナー室において、研修会が開催されました。川口淳氏(三重大学大学院工学研究所・災害対策プロジェクト室チーフオーガナイザ)による「地震災害の現実と危機管理」のテーマで講演が行われました。被災の映像と川口先生の熱のこもった講演に、参加者は目をこらし、聞きのがすまいと時間を忘れ、地震による危機管理を再認識する研修会となりました。

#### <近畿地区>

##### 1. 研修会

###### ①平成18年度 第2回

日時：平成18年10月18日(木)13:30~17:00

場所：大阪府立女性総合センター(ドーンセンター)&情報ライブラリー

出席者：13館 13名

講演：「ドーンセンターにおける情報ライブラリーの役割」

講師：木下みゆき氏

(ドーンセンター情報ライブラリー  
コーディネーター)

見学会：ドーンセンター&情報ライブラリー

###### ②平成18年度 第3回

日時：平成18年12月5日(火)13:30~17:00

場所：京都文教短期大学 第1会議室

出席者：21館 25名

テーマ：図書館の自己点検と評価

講演：「短大図書館の自己点検・評価―第三者評価との関連で―」

講師：秋葉英則氏

(大阪健康福祉短期大学長・大阪教育  
大学名誉教授)

討議：研修会用として事前に実施したアンケート結果の報告

参加館からの意見・質問を中心とする話し合い



(近畿地区研修会)

## 2. 幹事会

### ①平成18年度 第2回

日時：平成18年6月29日(木)

場所：華頂短期大学図書館

出席者：5館 5名

議題：・引継ぎ  
・第2回研修会について  
・第3回研修会について（地区加盟館宛アンケート実施を検討）

### ②平成18年度 第3回

日時：平成18年7月21日(金)

場所：大阪府立女性総合センター（ドーンセンター）

参加者：3館 3名

議題：・第2回研修会について  
・ドーンセンター情報ライブラリー見学打合せ

### ③平成18年度 第4回

日時：平成18年10月3日(月)

場所：大阪キリスト教短期大学図書館

参加者：3館 3名

議題：・第2回研修会について  
・第3回研修会講師招聘について  
・次年度本部事業会報担当役員について

### ④平成18年度 第5回

日時：平成18年10月18日(木)

場所：大阪府立女性総合センター（ドーンセンター）

参加者：4館 4名

議題：・第2回研修会最終打合せ  
・第3回研修会について

### ⑤平成18年度 第6回

日時：平成18年11月6日(月)

場所：京都文教短期大学図書館

参加者：4館 4名

議題：・第3回研修会について  
・次年度地区役員について

## <中国・四国地区>

### 1. 私立短期大学図書館中国・四国地区協議会役員館引継

日時：2006（平成18）年4月14日(金)  
14：00～16：00

場所：松山短期大学図書館（東本館7階第4会議室）

出席者：新旧役員館 5館 10名

議題：新旧役員館の業務引継および予算関係について

- ・2005（平成17）年度事業報告について
- ・2005（平成17）年度決算報告について
- ・2005（平成17）年度監査報告について
- ・新役員館の業務分担について
- ・2006（平成18）年度事業計画（案）について
- ・2006（平成18）年度予算（案）について
- ・紀要業務の引継ぎについて
- ・引継業務の書面確認について

### 2. 2006（平成18）年度中国・四国地区協議会第1回役員会

日時：2006（平成18）年6月23日(金)  
14：00～15：10

場所：松山短期大学図書館 ミーティングルーム

出席者：3館 7名

議題：①全国理事会および総会の報告について  
②第21回2006（平成18）年度中国・四国地区総会・研修会（案）について  
③加盟館名簿の取り扱いについて  
④紀要原稿について

### 3. 2006（平成18）年度中国・四国地区協議会第2回役員会

日時：2006（平成18）年10月12日(木)  
11：00～

場所：松山短期大学図書館 ミーティングルーム

出席者：3館 6名

議 題：①総会・研修会の再確認  
②その他

#### 4. 第21回2006（平成18）年度中国・四国地区協議会総会・研修会

<総 会>

日 時：2006（平成18）年10月12日（木）  
13：30～15：00

会 場：松山短期大学図書館 読書指導室  
当番校：2006（平成18）年度会長館・松山短期大学図書館

出席館：9館（総会出席者14名）  
欠席館：9館（委任状提出館9館）  
2006年度加盟館：18館

協議事項：会長校のローテーションについて中四国協議会の加盟館の減少に伴い、現状での運営が困難になることが予想されるが、当分の間、現状の地区別ローテーションで運営することが確認された。

<研修会>

日 時：2006（平成18）年10月12日（木）  
15：30～17：00

会 場：松山短期大学図書館 読書指導室  
テーマ：「短期大学図書館等の図書館情報学教育の現状と課題」

講 師：中川正己氏  
（松山大学人文学部助教授）

参加者：16名

<意見交換会>

日 時：2006（平成18）年10月12日（木）  
18：00～20：00

会 場：東急イン  
出席者：23名

<見学会>

日 時：2006（平成18）年10月13日（金）

9：00～12：00

見学先：湯月城址・子規記念博物館・道後ぎやまんの庭

出席者：8名

#### 5. 「私短図中・四国協ニュース」発行

第29号 2006（平成18）年11月1日発行、加盟館配布

<九州地区>

#### 平成18年度 夏期研修会（参加14館22人）

1 日 時：平成18年9月1日（金）  
2 会 場：福岡国際大学・福岡女子短期大学  
図書館

3 会次第

(1) 研 修

事例報告

テーマ「学生利用者へのサービスについて  
－図書館員の意識が変れば図書館  
が変わる－」

<事例報告内容>

4館が、それぞれの館の実情を報告。活  
発な意見交換がなされた。

(2) 福岡女子短期大学図書館見学

<見学内容>

先進的な設備と余裕のある施設状況に加  
えて、利用促進のための工夫が随所に見  
られ、当該図書館の活発な活動を見学で  
きた。

(3) 自由討議

「(1) 事例報告」に対する質問等が相次  
いだ。特に、図書予算に関する事、及び、  
DVD等の貸出しと著作権の関係に討議  
が集中した。

(4) 読みきかせ

白根恵子氏によって、絵本や童話を使っ  
た読み聞かせの実際が行われた。

## 編 集 後 記

■平成18年9月7日、8日の両日、全国研修会が、東京ガーデンパレスを会場に開催されました。隔年開催に移行後、実に2年ぶりの全国研修会です。「第三者評価」、「ホームページ」、「利用者教育」それぞれのテーマ毎に講演と分科会が用意され、短期大学の今日的かつ重要な課題について学習された様子が伝わってきます。ご寄

稿いただきました方々にお礼申し上げます。

■北海道地区の会報編集業務も今回で最後となります。皆様からのご協力を深く感謝します。次号からは近畿地区が編集いたします。今後とも皆様の「お声」を届けくださいますよう切にお願いいたします。

（木村）